

平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ヤリイカ

学名 *Heterololigo bleekeri*

系群名 太平洋系群

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命： 1歳
成熟開始年齢： 1歳 (100%)
産卵期・産卵場： 1～6月、九州～東北(岩手県以南)の太平洋沿岸各地
索餌期・索餌場： 土佐湾では、稚仔は5～6月に水深100m前後に着底し、7月に外套背長50～80mm程度に成長した個体から水深150m付近に移動し、8～12月には水深300mまで分布を拡大して索餌活動を行う
食性： 外套背長50mmまでは主にカイアシ類、成長とともに大型のオキアミ類やアミ類、170mm前後からは魚類
捕食者： 不明

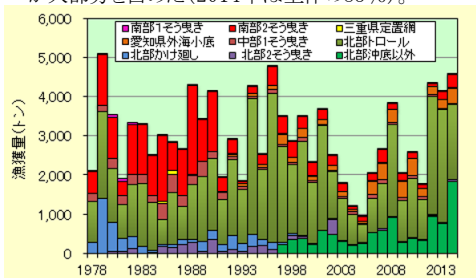


漁業の特徴

主に底びき網により漁獲される。近年の主要な漁場である太平洋北部(岩手県南部～房総)では、沖合底びき網(沖底)のトロールによる漁獲が多い。太平洋中部(千葉県以南～愛知県)では、近年は愛知県外海小型底びき網(小底)の漁獲割合が高く、太平洋南部(四国および九州沿岸海域)では、主に沖底の2そう曳きによって漁獲されている。

漁獲の動向

漁獲量は、概ね1,000～5,000トンの間を増減している。近年では、2011年の東日本大震災(震災)の影響で1,778トンまで減少したが、2012年以降は4,000トン台に増加し、2014年は4,577トンであった。海域別では、1990年までは太平洋北部と中部・南部はほぼ同程度であったが、1991年に南部の沖底漁獲量が急減した。その後は北部の漁獲量が大部分を占めた(2014年は全体の83%)。

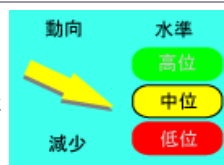


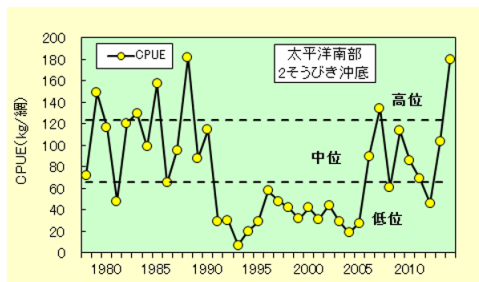
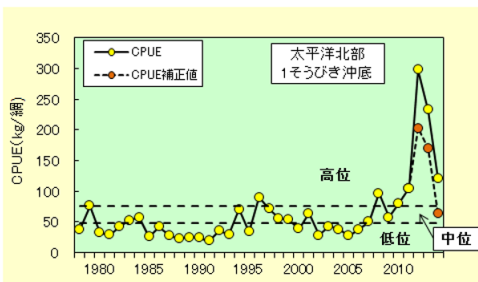
資源評価法

本系群を対象とした漁業の操業形態は、太平洋北部海域と中部・南部海域で異なる。このため、太平洋北部と太平洋中部・南部の2海域に分けて資源状態を判断した。資源量指標値として、太平洋北部では沖底のトロールのCPUEを、太平洋中部・南部では太平洋中部の愛知県外海小底の漁獲努力量データが未整備でCPUEが使えないことから、太平洋南部の沖底の2そう曳きのCPUEを用いた。

資源状態

太平洋北部の資源水準は、震災前の期間(1978～2011年)のトロールCPUEの最大と最小値の間を三等分し、高位、中位、低位とした。2014年のトロールCPUE(2012年以降は福島県船自粛の影響を除くため補正した)から資源水準は中位、直近5年(2010～2014年)のCPUEの推移から動向は減少と判断した。太平洋中部・南部の資源水準及び動向は、1978～2014年の南部海域での2そう曳きCPUEから同様に資源水準を区分し、水準は高位、直近5年(2010～2014年)のCPUEの推移から動向は増加と判断した。系群全体では、漁獲量の大部分を占める太平洋北部を優先し、資源水準は中位、動向は減少と判断した。





管理方策

資源量指標値は太平洋北部と太平洋中部・南部で異なる変動傾向を示している。このため、資源量指標値の変動に合わせた漁獲を行うことを管理目標として、それぞれ2016年ABCを算出し、合算して系群全体のABCとした。ヤリイカなど単年性のイカ類は、毎年の加入量が環境要因によって大きな影響を受けることから、より直近の漁獲データの活用が重要である。生息環境の長期的な変化が分布海域の変動に与える影響を考慮しながら今後の動向を注視する必要がある。

管理基準	Limit/Target	F値	漁獲割合 (%)	2016年ABC (百トン)
1.0・北部Cave3-yr・0.52	Limit	-	-	28
1.0・中部・南部Cave3-yr・1.61	Target	-	-	23

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量である
- Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大または維持が期待される漁獲量である
- ABC算定規則(2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Cave3-yr \cdot \gamma_1$ 、 $ABC_{target} = ABC_{limit} \cdot \alpha$ とし、係数 α には標準値0.8を用いた
- δ_1 には1.0(中位水準における推奨値)、 α には標準値0.8を用いた
- γ_1 (北部0.52、中部・南部1.61)は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算した。kは標準値の1.0とし、bとlはそれぞれの資源量指標値の傾きと平均値(直近3年間(2012～2014年))である
- Cave3-yrは2012～2014年の平均漁獲量

資源評価のまとめ

- 系群全体では、資源水準は中位・動向は減少
- 北部では資源水準は中位、動向は減少、中部・南部では資源水準は高位、動向は増加

管理方策のまとめ

- 資源量指標値の変動に合わせた漁獲を行うことを管理目標として、北太平洋北部及び中部・南部の2016年ABCを算出し、合算して系群全体のABCとした
- 生息環境の長期的な変化が分布海域の変動に与える影響を考慮しながら今後の動向を注視する必要がある

執筆者: 酒井光夫・加藤慶樹・服部 努・梨田一也

資源評価は毎年更新されます。